

第15回たつの市子ども・子育て会議

会議録

日	時	令和元年7月5日（金）	14：00～15：30
場	所	たつの市役所 301 会議室	

審議経過

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 報告

(1) 子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果について

事務局より説明

資料1

委員：小児救急医療電話相談事業を今後利用したいと回答した方がたくさんいるが、事業の実施状況について具体的に聞きたい。

担当課：小児救急医療電話相談事業は、たつの市主体ではなく、電話相談事業として実施をしている。今までは「#8000」として兵庫県で実施していたが、昨年度より姫路市にも開設された。小児救急医療電話相談は、土曜・日曜・祝日、あるいは夜間など、医療機関が休みの時に電話を受けてくれるため利用要望が高い。母子健康推進委員の全戸訪問の際や乳幼児健診の際にチラシを配布するなどPRに努めたことも関係あるのではないかと考える。

会長：子どもが病気にかかった際の対応の仕方について皆さん悩んでいると思う。

委員：県では、子ども病院に電話相談室を確保しており、そこで休日や夜間に対応している。それを各地域にもということで、姫路市にも立ち上げられた。姫路市では、急病センターに看護師が常駐して、24時まで対応している。家庭で様子を看られる子どもたちに対しては、夜間に外出させるよりは、そのまま様子を看てもらおうということで対応している。人数的なマンパワーがどうしても必要になり、毎日となると大変なので、たつの市としてはそういう電話相談には対応はできていないが、西播地区ではやっと姫路市でそういった対応ができはじめている。姫路市を含めた西播小児救急連絡会においても、電話相談を開始してからは、急病センターの救急患者の受診は少なくなりつつあると聞いている。

会長：子どもの病気にどう向き合っていくかというのは、行政も施設側も大事なことである。保育園や認定こども園、幼稚園に1名程度、看護師がいればもう少し状況は変わってくるのではないと思う。資料8ページにもあるが、ファミリーサポートセンターがほとんど利用されていない。設置場所や対応エリアを考えていかないといけない。

委員：保育料無償化によって入所希望者が増えると予測するが、対応について伺いたい。

担当課：3歳児の利用希望が高くなるという予測はしている。施設面では、家で過ごしている

3歳の子どもが仮に全員施設を希望しても、十分受け入れられるキャパはある。ただ、施設があっても保育士がいないと預かることができないため、今年度、私立の保育士の処遇改善を行い、地道な活動としては、各施設や公用車に保育士募集のチラシやポスターを貼るなど、人材面でも増加する需要に対応していく。

委員：8ページに病児・病後児保育を利用したいと思わないが64.5%とあるが、理由が分かれば対応について考えていただきたい。

事務局：利用したいと思わない理由としては、病児・病後児を他人に見てもらうことに不安があるが最も多く、続いて親が仕事を休んで対応する、利用料がかかる・高いと感じている。

会長：「利用したくない」から「利用したい」と思えるたつの市の支援事業であってほしい。よく考えると、確かに施設は足りている。だが、たつの市は独特の地形をしており、ある地域での保育所や認定こども園は定員が満員で、空いているところに行くには30分以上かかることもある。この現状をどうやって打破するかが大きな課題だと思う。

担当課：例えば、希望する園が地域の中の園なら良いが、親が勤めている場所で預けたいとなると、その園が多くなって、地元の方が入るときも抽選という形となる。市外の方が来られる時もある。家の近くで行きたい方が遠くなることもある。全体の中で、キャパがあるので、保育士の確保を市として努力していく。

委員：6、7ページの地域子育て支援事業の利用状況について、少子化対策として子育て支援に力を入れたいという中で、「利用したことがある」は少ないが「今後利用したい」という回答が一定数ある。実際に利用したことがある方は良いが、利用したことがない方は知らずに利用していないのか、知っていて利用していないのか。市のPRが足りないということであれば、そこに取り組んでいただきたい。

委員：私もこのアンケートに答えたが、児童館は「利用したことはないが今後したい」に○を付けた。児童館がどこにあるのかを正直知らなくて、利用したいができていない状況である。児童館のことを教えていただきたい。

事務局：児童館は、市福祉会館の3階にあり、たつの市社会福祉協議会が運営を行っている。子育てつどいの広場と同じように、自由に来て遊んでいただくことができる。つどいの広場と違う点は、小学生も利用していただけて、体育、図工、音楽といったクラブ活動も行っている。PR不足という意見もあったので、今後はそこに力を入れていきたい。

委員：「今後利用したい」というところで、プレママサロンで74%が「いいえ」と答えている。仲間づくりにもなるのでとても良い事業だと思っているが、PRは母子手帳交付のときと聞いている。実際に利用した方の声が広報などに載っていると、もっと知っていただけるのではないかと。どの事業も「はい」が多くなるともっと子育てしやすい、たつの市になるのではないかとと思う。

委員：児童館利用者は、施設近隣の方が多いのではないか。市全体の児童館というのは無理があるのではないかと。

会長：総合支所の中に児童館は併設されないのか。併設されると、もう少し身近な存在になるのではないかと。ただ、それだけ需要があるかないかによるが。

委員：子どもが中学と高校になる。正直小さい頃は母親に任せっきりの形だったが、子どもが病気になったときは、会社を休んで看たりもした。子どもが病気の際は どうしますかという質問で、親が休むと回答した人も多く、子どもの虐待が騒がれている中で、親も捨てたものではないなというのが率直な意見である。病気の子どもを預けられる場所があるかという質問も、祖父母に看てもらえるなど、核家族化が進んでいる中で、たつの市では近くに親が住んでいる方が多いなと実感した。

会長：アンケートの結果については以上で締めさせていただく。このアンケートの結果に基づいた事業計画を作っていただきたい。

(2) たつの市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

担当課より説明

資料2

(3) 令和元年度保育所・幼稚園・認定こども園入所状況について

担当課より説明

資料3

会長：小学校区・中学校区別に子どもたちの通所率について、0～2歳までの子が40%台、3～5歳までの子が80～90%前後入所している。これは市としてはどういう評価か。

担当課：だいたい5歳もしくは4歳あたりから100%に近い率で通われているが、幼稚園が4、5歳からということもあり、小学校との接続を見据えて何らかの施設に通われていると思われる。幼児教育無償化に伴って、3歳の子どもについても高い通所率になって行くのではないかと予想している。小学校との接続の部分で言うと、通所率が高い方が望ましいと考えている。

会長：0～2歳までの就園率は現状維持くらいで良いのか。働き方改革で親の働き方がだんだん変わってくと思う。子どもが家にいるから仕事を辞めたなどのアンケート結果もあったが、そのあたりのことを踏まえて現状をどう思っているか。

委員：保育料の無償化ということ自体が働き方改革と関係していると考え。現状の数字よりもアンケートの中に問15-5で0～1歳については、まだ子どもが小さいため、何歳かになったら利用しようと考えている人が多く、自分で育てたいという気持ちがあるのではないかと思う。ただ私たちが問題とするのが、利用したいが教育・保育の事業に空きがない、利用したいが経済的な理由で事業を利用できないということが何%かということだと思う。ここをしっかりとらえて政策に結び付けていくことが、今後行政がやっていくべきことと考えているので、実際に0～2歳の子どもの就園率が何%で多いのか少ないのかよりも、こちらの方の政策をしっかりと考えていくべきだと思う。

委員：子どもの数が少なくなっていることや、母親の就労率が高くなっていくことが今後も続くと思う。一概には言えないが、子どもが可愛いとか、子どものためというより、親の方が安心したいとか、子どもにこうなって欲しいからで動いていると思う。親が安心したいからということに偏ってしまわないことが大事。高校生や大学生になっても、色々なことの根っこは幼児期など、記憶がない頃も含めての体験だと思う。高校生でも、直

接何かを言われたわけではなく、友だちが離れたところで会話していることを自分のことのように感じて不登校になってしまう子は、子どもの頃の体験、寂しい思いをしたとか、言いたいことが言えずに我慢したとか、そういうことが積み重なっている場合が多い。親が子育てに一生懸命で、教育のためだと思っていることが、結果として子どもの問題につながっているというケースを体験している。色々な政策を考えていただくときに、親を対象に子育てに何が大事かという講座が必要だと思う。高校生など、結婚や妊娠・出産・子育てがまだ非現実的で、自分が育てられている立場の時に、親育て教育のようなものを、そういう視点の授業が積み重なっていくことが、色々な問題を防ぐことにつながると思う。大人が子どもを自分の一部のように思っているとしたら、この数字は怖いと思う。至れり尽くせりの環境は良いと思うが、それを良いと思っているのは子ども本人ではなく親である。子どもを視点に取り組んでいただけるとありがたい。

会 長：保育所、認定こども園にしても、親にしても、それぞれ教育しないといけないことは分かっているが、小中学校ごとに講座を開いて、良き父親・良き母親を目指すための学習会ができれば良いと思う。

5 その他

(1) 幼児教育・保育の無償化について

担当課より説明

資料4

会 長：10月までに、余裕をもって親御さんに説明できるよう整えていただきたい。

6 閉会